

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいあるみすまい		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8-33		
自己評価作成日	令和5年12月4日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503759-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して暮らす事が出来る様に多様なニーズに合ったサービスを提供し、個人に合わせた生活リズムを提供し季節の行事やレクリエーション又近隣の小学校より職業体験で来て頂き利用者様と触れ合う機会を作っております。個人の外出等も行い皆様に喜んで頂けるように様々な企画に取り込んでおります。ご家族様との面会の時間も大切な時間であるために感染対策を行い居室にて行ってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 事業所の基本事項：市内簾舞地区の石山通り沿いに位置し、近隣には公園、小学校、コンビニ等がある交通、生活に至便な住宅街に立地している。
2) 職員の介護への基本姿勢・態度：職員は管理者を中心に事業理念を介護の基本として研修を重ね、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。
3) 家族の介護支援への好感等：家族は管理者、職員が利用者・家族の声を受け止め、理解して柔軟な介護の対応姿勢に高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況：家族、地域関係者、地域包括等の参加・協力を得て、定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参会者の意向を運営に反映するように努めている。
5) 自治組織・機関等の連携：現状でまだ自粛傾向にあるが、通例では施設・地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、改めて地域との関係再構築に向け、取り組んでいる。成果に期待したい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示されている。職員は利用者との信頼関係が築けるよう、理念の実現に向かって取り組んでいる。	理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。理念通りのケアが出来ているか定期的に職員会議、研修の場で検証、協議しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みのバレエスタジオからの提案で子供達による踊りの披露や小学生との交流を行っていた。	相互の自粛傾向の中、事業所の近況の周知等、関係維持について職員間で協議しながら、相談に応じたり、日常的な挨拶等で地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回実施されている運営推進会議で施設の様子や、取り組みをお伝えしている。地域の方からの相談などにも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況や行事、事故報告、サービス改善にのての報告をし意見交換を行っている	運営推進会議には、行政や包括、民生委員、特養ホーム職員等の参加協力を得て、2ヶ月ごとに定例開催している。行事内容や待機数、生活状況から福祉的な課題まで話し合い、今後のサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の割合が多く、緊急時の相談など行政の担当者とは密に連携が図れている。運営上の案件や報告書類等に関しては、電話やメール、FAXを活用して行政と情報を共有している。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を常設し、現状のケアについて再確認し、不適切な言葉遣いや対応が無かった等話し合い周知徹底している又振り返る機会に取り組んでいる。	身体拘束、虐待に関する委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修において権利擁護や成年後見制度について情報提供も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分な説明を行い、疑問点等があれば敏速に解決している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しご意見や提案を頂き、職員間で共有し反映させている。	主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、会議の場で検討して運営やケアプランに反映している。お便りの他、電話、面会等、柔軟に情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い意見や提案を聞き又事業所や会社に対しての要望等がある際には職員意見箱もあり運営に反映させている。	日々の申し送りや連絡ノートを活用し、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談で職員の悩みや希望等を把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	性別・年齢・学歴に関係なく、やる気を重視して採用を行っている。認知症研修など行い学ぶ機会を設け、家庭の事情等で時間の制限がある職員に関してもできるだけ配慮し、働きやすい職場づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修(リモート)に積極的に参加し同業者との情報交換を行い日常のケアに反映できるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、傾聴し、施設での暮らしの情報を取り入れ、職員間で共有し、安心感を持って生活していただけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて、話し合いの機会を設け、ご家族の不安等が軽減されるまで話を伺い、話しやすい環境作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の要望等を聞き取り様々な職種の職員と課題分析を行い、ニーズを見極め、安心して生活していただけるように適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は行って頂き、出来ない所は出来る範囲で職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に月に一度、本人の写真付きのお手紙で様子を伝えている。共に本人を支えていく関係作りに努め協力し支援にあたっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の場所や行きたい所など、ご本人やご家族に聞き取り出来る限り希望に添える様に支援していく。知人等への電話連絡等で関係継続できるよう努めている。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや施設行事等に参加していただき、利用者同士の関係を観察し、必要時に職員が入りながらコミュニケーションを図る事が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できるよう努めている。相談に対して活用できる必要な提案、情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の意向を把握し、職員で話し合い、その人らしい生活が出来る様に努めている。	職員は、ケア全般において定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの想いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個性性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人やご家族より生活歴や生活状況を聞き取り居ごのサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントやモニタリングを行い、その時々々の状況を観察しながら支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、ご本人やご家族の要望などをお聞きし、ケアマネージャー、職員とでモニタリングを行いケアプランの作成に反映させている。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録、職員によるモニタリングを基にカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の生活状況を介護記録に残し、評価やモニタリング時に柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、支援やサービス内容を考え直し、出来る限り本人やご家族のニーズに合わせ工夫をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの受け入れし又は利用者様も様々な行事等に参加できる様に体制をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続できるよう入居時に希望を聞いている。また受診や往診の際には職員が立ち合い、主治医への状態報告や指示受けを行い、医療関係との関係づくりに努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。訪問診療による受診や、訪問看護による健康チェックがあり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について医療連携で訪問看護、往診医に情報提供、相談し、必要時には受診するなど連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院時、基本情報・病歴・薬情を伝えている。入院中は電話にて状況の確認を行い、退院時の流れもスムーズに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明は行っており、ご家族から利用者が重度化や終末期になった際の意向について話し合い書面に残している。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティングなどで実践力を身に付けるよう務める。また、急変時の連絡・対応マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している、町内会長さんには何かあった時にはご協力をお願いしている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の他サービス事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に介護理念を意識し、急かす事なく利用者様のペースで行い、言葉遣いや態度などには職員ひとりひとりが注意をしている。	接遇面は研修で学び、不適切なケアは職員同士で注意し合える関係作りに努めている。呼称は苗字にさん付けとし、一人ひとりの人格の尊重を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が引き出せるような環境作りは出来ている。認知症により意思表示が出来ない方には声掛けを多くしコミュニケーションを取り、言動や行動から感じ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはほぼ決まっているが、体操やレクリエーションへの参加は強制はせず、本人のペースで生活していただけるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を選んでもらったり、こだわりのものを身に付けられるように支援している。また衣類の乱れがあれば声掛けしたり、一部介助をしたりして身だしなみに配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託している為、盛り付け・片付け・食器拭きのお手伝いを積極的に行っている。またレクリエーションとして、手作りおやつなどを作っている。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感や栄養バランスを大切にしている。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理にて食事提供を行っている。食量や水分量は記録に残しており、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い促している。自力でできない方には、一部介助や全介助を行っている。一週間に一度歯科往診にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在の能力を維持できるように、できる限りトイレ誘導しベット上での介助にならないように努めている。排泄チェック表を確認し声掛けを行って支援をしている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、排泄の誘導も習慣を尊重し、時間と仕草を読み取って行っている。パット類の使用は最小限となるよう職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便間隔があく場合には往診先の医師に相談し排便コントロールしており、水分摂取や過度の運動にも取り組んでいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、本人の体調や希望により、曜日や時間をずらすなど柔軟に対応し職員と1対1で利用者のペースに合わせゆったりと楽しめるよう努めている。	週2回入浴は体調や気分に合わせて、利用者ごとにゆったりと時間を取って支援している。拒否がある場合も、担当者や時間を変更し、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の疲れ具合に合わせて、個別の休息（昼寝など）を取り入れている。入眠時も希望の時間で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている処方内容を職員全員が閲覧できるような管理を行っている。体調変化が見られた時には直ぐに24時間対応の往診先の医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割であったり出来ることを継続して行う事が出来る様に、意図的に働きかけ役割を持って生活できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から行きたい所や馴染の場所などを聞き取、出来る範囲で希望に沿った外出の支援を行っている。	春以降も利用者の重度化等により、全員での外出行事は難しくなっているが、個別に声掛けし、感染防止に留意しながら、閉じこもらないよう外出の機会を設けている。また、事業所内でのレクリエーションの充実に努めている。	感染防止に留意しながら外出機会の枠を広げたり、職員間で協力し、日常的に外気に触れ戸外に出る取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を使用出来る事の大切さは理解しているが現状実施はしていない。しかしながら、希望があればいつでも家族との相談のうえで実施に向けた用意をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合には電話を使用して頂く事は可能だが現状利用される方はいない状態であるが、手紙等が届いた際には本人へ渡し家族との繋がりが途絶えないように心掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはカーテンやエアコン、暖房などを適切に使用し換気も含めて環境を調節している。壁面には季節の飾りつけを行い季節感を感じる事が出来る様にしている。	共有スペースは温・湿度や換気に留意し、食卓やソファ等、利用者が好きな場所で過ごせるよう清潔に保たれている。季節の飾り付けを職員と共に制作、掲示し、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは広くなく一人に慣れる場所是用意できないが、利用者同士の関係等を考慮した食席やスタッフが配慮する事で安心して暮らして頂けるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、馴染みのものを室内に持ち込んで飾って頂けることを説明し安心した環境を作ることを心掛けている。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族写真等を飾り、居室には洗面台が備え付けられ、心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や文字を使用する事によって施設内を自分の意志で移動できる事が可能になるように居室前には名前を提示しトイレや洗面所にも解りやすく提示をしている。		